

【野田大臣 第1回シンポジウム 冒頭挨拶】

こんにちは、孤独・孤立対策担当大臣の野田聖子です。

プラットフォームの会員の皆様方におかれましては、日頃より、長期化したコロナ禍の影響を受け、様々な事情により、生きづらさや悩みを抱えている方々への支援活動を通じ、孤独・孤立対策にご尽力いただいていることに対し、御礼申し上げます。

また、昨今の原油価格や物価の高騰等に直面し、困窮等により孤独・孤立に悩む方々などに対し、きめ細やかに支援されていることに重ねて感謝申し上げます。

政府としては、昨年2月以降、孤独・孤立対策として様々な取組を行ってきたところですが、政府として初めて、「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」の結果を、今年4月に公表しました。

これは、孤独感や社会的孤立の状態について、全体的な傾向を政府統計として初めて明らかにしたものです。

調査結果からは、20代～30代の若者に孤独感の割合が高い傾向や、孤立の観点からは、約1割の人が同居していない家族や友人たちと、直接会って話すことが全くないことなどがわかりました。

本日は、この実態把握の調査結果を活用して、「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム 第1回シンポジウム」を開催する運びとなりました。

本日のシンポジウムでは、孤独や孤立を感じる属性や傾向に焦点

を当て、それぞれの課題の背景と取組の現状について考察すること
としています。

プラットフォームの会員の皆様には、是非この調査結果や本日の
議論を、今後の活動のご参考にしていただけますと幸いです。

政府としても、この全国調査の結果を踏まえ、必要な対策を検討し、
孤独・孤立に悩んでいる方に必要な支援が行き届くよう、しっかりと
取り組んでいきたいと考えております。

最後になりますが、このシンポジウムが、会員の皆様にとって有意
義なものとなるよう期待して、私のご挨拶といたします。

(了)